

小金井市、調布市、府中市の可燃ゴミを燃やしている二枚橋焼却場が老朽化のため、来年3月で運転を終了する。そこで問題になるのが、どこでゴミを燃やすのか？。10月4日の小金井市議会で稲葉市長は「来年4月以降、小金井市のゴミを引き受けても良いという自治体は、現時点では見つかっていない」と述べた。明日の生活に直に関わるゴミ問題。どうして、このような状況に至ったのか……。

この間の経過

[施設の老朽化]

「震度5で崩壊する」と専門家が指摘する二枚橋焼却場を、これ以上、運転し続けることは、施設で働く職員の安全上、問題。老朽化のため年間の維持補修経費もかさみ、市民から出される可燃ゴミの全量焼却もできなくなってきた。そのため運転終了することを決意。

[国分寺市に焼却要請]

二枚橋焼却場は小金井市、調布市、府中市が共同運営。運転終了により、可燃ゴミ焼却を受け入れてくれる施設を探すことになり、調布市は、三鷹市の焼却施設に受入れを要請。府中市は、多摩川衛生組合の焼却施設に受入れを要請した。一方、小金井市は西国分寺駅の北側にある国分寺市の焼却施設への受け入れを要請(2004年5月)。その際の小金井市の要請内容は、「将来の焼却場建設を含めて、可燃ゴミを共同処理することについて協議したい」。

[覚書を結ぶ]

今年10月4日までに小金井市は、国分寺市との間で25回の協議を行ない、今年8月18日には、国分寺市との間で「覚書」を結んだ。内容の中心は、「小金井市長は、平成19年4月1日以降の広域支援が円滑に進むように、可燃ゴミの共同処理に向けて、平成19年2月までに新焼却場(平成29年度稼働予定)の建設場所に関する事及び建設へのスケジュールを含めて、一定の方向を国分寺市長に示すものとする」というもの。

[来年2月までに候補地を示す]

「覚書」で述べる「一定の方向を示す」について、10月4日の市議会で市長は、「2月までに焼却場建設の候補地を示すこと」と述べ、来年2月には新焼却場の建設候補地を明らかにすることを言明した。同時に、候補地については、市民参加の検討委員会で決めていきたいと述べた。

どこに建てるのか

そこにわかにクローズアップされてきたのは「新焼却施設をどこに建てるのか?」。「来年2月に候補地を示す」というが、候補地は「市民参加で決めていく」と言うのだから、来年2月までに間に合うわけがない。一方、国分寺市側は、西国分寺の焼却施設周辺住民の感情も念頭に入れる必要があるため、「来年2月に新焼却場の候補地を示す」は譲れない。そのため10月4日の市議会では、「候補地」は「一つ」なのか「複数なのか」の質問が出された。市長は「非常にデリケートな問題なので」と、明言を避けた。市民参加で候補地を決めるとなると、複数の候補地を示すことが予想されるが……。市長は「今月中に市議会の全員協議会をお願いしたい。そこで今後のスケジュールを示したい」と答弁(10月4日)。どのようなスケジュールで国分寺市との共同処理をすすめていくのかが、示されることになった。なお、市議会全員協議会は、10月31日(火)午前10時から開催される。

問題はそれだけでは終わらない

小金井市の可燃ゴミが全量焼却できない

来年2月には、新焼却施設の候補地を示さなければならない。それが一つなのか複数なのかの違いはあったにしても、しかし、それ以上に切迫しているのは、小金井市民が排出する可燃ゴミの焼却処理がまっとうできるのかということ。

二枚橋焼却場で稼働している焼却炉3炉のうちの一つが今年10月、運転を終了した。それにともない、小金井市・調布市・府中市とも、それぞれが要請したゴミ施設にゴミの搬入を開始した。「覚書」にもとづき小金井市の可燃ゴミは、この10月から二枚橋焼却場と国分寺市の焼却場で燃やされている。右上の囲みに記したように、二枚橋焼却場で燃やしている小金井市の昨年度の可燃ゴミ量は1万9,400トン。一方、国分寺市の焼却場で小金井市の可燃ゴミを受け入れられるのは年間6千数百トン。つまり、三分の一しか焼却できない。どうするのか?と問われて小金井市は、「国分寺市の受け入れ量を超えたゴミの処理先は、現在、他の施設に要請中」の状況。10月中旬の市民まつりでの開会あいさつで市長は「来年4月以降の、国分寺市施設で処理しきれない可燃ゴミは、現在、三多摩地域の何市かが受け入れても良いとの返事をしてくれている」と述べたが、「まだ全量処理できる状態ではない」。

二枚橋焼却場

1957年2月15日に設立。来年2月でまる50年。自治体の焼却施設では「国内最古」と呼ばれている。小金井市・調布市・府中市が共同で運営。

住所：調布市野水2-1-1

処理能力 焼却 510t/日

(135t×3炉、105t×1炉)

破碎 30t/5時間

2号炉：1967年完成 ———— すでに停止

1号炉：1967年完成

3号炉：1972年完成

4号炉：1972年完成

今年10月、12月、

来年2月と順次

停止。来年3月には全ての運転を停

止する。

[処理量(2005年度)]

小金井市 1万9,400トン

調布市 3万9,400トン

府中市 2万1,300トン

合計 8万 100トン

来年3月以降、

計8万トン余が

嫁ぎ先を必要と

する。

なぜ今になって慌てることになったのか

「老朽化により全量焼却困難・安全第一」を判断し、二枚橋焼却場の運転終了を決意したこと自体はやむを得ない。しかし、国分寺市の施設に焼却をお願いするのであれば、国分寺市の焼却施設の処理能力と小金井市の可燃ゴミをどれくらい受け入れ可能なかの事前調査を行うのは、あたりまえ。ところが小金井市は「東京都から『国分寺市にお願いしてはどうか』といわれたので国分寺市に要請をした」と述べ、主体性のない実態を露呈させた。その小金井市はこの間、武蔵小金井駅南口再開発事業に神経を集中。しかし市民の毎日の生活に関わるゴミ問題には、あまりにも集中力が欠落していた。

「小金井市の可燃ゴミの全量焼却困難」を小金井市が把握したのは昨年11月。そして今年5月1日に、国分寺市から正式に「全量受入れは不可能」との回答を受けた。先に記したように、小金井市が国分寺市に可燃ゴミの共同処理を要請したのは2004年5月。それから実に1年半後に「全量焼却困難」を小金井市は認識するに至るという事態に。では、国分寺市はいつの時点で「小金井市の可燃ゴミの全量焼却困難」を打ち出していたのか……？

国分寺市は昨年6月28日の「第3回 国分寺市長期総合計画策定環境部会」で公に明らかにしている。環境部会の席上で「小金井市の全量処理できますか？」との質問に対して、国分寺市の環境部長は即座に「不可能です」と答弁。しかし小金井市が「全量処理不可能」を把握するのは、それから5カ月後。国分寺市がなにゆえに「全量焼却困難」を真っ先に述べてこなかったのかは、不明。

[秘密主義の小金井市]

市議会および市民が、この事態を知ることになったのは今年6月6日。日本共産党の関根議員がゴミ焼却問題での一般質問を行なうために国分寺市のホームページを調べ、上記の「第3回 国分寺市長期総合計画策定環境部会」（昨年6月28日）議事録を発見。6月6日の一般質問で関根議員が事実を突きつけて追及し、ようやく市側が「全量焼却困難」を認める事態に。それでも小金井市が市民に対してこの事態を明らかにするのは、10月1日付「小金井市報」での「ごみ非常事態宣言」を待つことに。しかし、来年4月以降の可燃ゴミの全量焼却のメドがたっていないことは、一切不問にされている。しかも、「非常事態宣言」は10月1日になってから。あまりにも対応がチグハグ。“危機意識を持っているのか”との指摘がされるのはあたりまえ。

[どうする新焼却施設の建設場所]

「来年2月に候補地を示す」と明言した稲葉市長。しかし、あと4カ月で一箇所であるにせよ複数であるにせよ候補地を示すことは困難。いきなり示したら、当該地域住民から大きな反応が起きるのは必至。仮に、そのような事態を想定しながらも候補地を示し国分寺市の了解をとりつけて、向こう10年間の小金井市の可燃ゴミ焼却をお願いできたとしても、2017年度(平成29年度)稼働予定の新焼却施設の着工準備ができるかどうか。すくなくとも5年後あたりからは準備にとりかからなければならなくなる。武蔵小金井駅南口再開発事業のように、反対運動を行なう住民に対して「待たなし！」を宣告し、「抵抗勢力」のレッテルを貼って孤立化させていくのか？。

何がいま求められるか

- 第1に、可燃ゴミ量を減らすために、可燃ゴミに混入している資源ゴミをしっかりと分別し、生ゴミの水気を十分に切る努力を市民に確実に呼びかけること。
- 第2に、生ゴミの堆肥化を積極的に市民に呼びかけ、協力を求めること。
- 第3に、国分寺市の焼却施設で処理できない可燃ゴミの扱いに対して、自治体独自の努力にさせないように、東京都の支援を強力に求めること。
- 第4に、新焼却施設の候補地選定にあたっては、発表する前に関係住民の理解を得られる努力を最大限、行なうこと。
- 第5に、できるだけ情報を公開し、市民全体の問題として情報を市民が共有できるようにすること。
- 第6に、新焼却施設は、煙やダイオキシン、臭いなどの問題で、その時点で確実に対応できる施設にし、地域住民の不安解消に最大限応えられるものにする。

すでに小金井市民は相当に努力している

■ゴミ総排出量は4番目に少ない。可燃ゴミ排出量は一番少ない。資源化率(家庭排出物のうちの資源ゴミ量)は2番目。(いずれも2005年度)

[ゴミ総排出量※]		[可燃ゴミ排出量※]		[資源化率]	
清瀬市	769.4 ㌧	小金井市	475.0 ㌧	調布市	39.1%
東村山市	788.8 ㌧	調布市	516.8 ㌧	小金井市	37.4%
稲城市	790.2 ㌧	東村山市	538.1 ㌧	三鷹市	30.0%
小金井市	797.3 ㌧	日野市	579.5 ㌧	国分寺市	29.7%
東久留米市	799.7 ㌧	三鷹市	582.1 ㌧	東村山市	29.5%

※一日あたり市民一人が排出する量(三多摩30自治体中)

二枚橋焼却場に持ち込まれる「可燃ゴミ」の実態

